



特集

櫻の郷里

百以上の種類があるとされる桜の中でも、古来から日本に自生する桜「エドヒガン」は全国的な希少種として知られています。そんな希少価値が高いエドヒガンが福智町に43本も生育する、全国屈指の群生地であることが長年の調査で明らかに——今回は、まさに「櫻の郷里」である福智町に暮らしているからこそ知っておきたい……町内に分布するエドヒガンに迫ります。

国内希少なエドヒガン 福智町内では福智のみ
日本の春と言えば、やはり「桜」を思い浮かべる人が多いのではないだろうか。それほど私たちの人生と深く結びつく身近な存在である桜ですが、一般的に想像される桜は人工的に作られた「ソメイヨシノ」という品種で、それを含めた百以上もの園芸種類が存在すると言われています。その親となる11本の品種が昔から日本に自生している「基本野生種」といわれ、その中でも数が少なく、希少性の高い桜として知られる「エドヒガン」が町内に43本も群生していることが約32年に渡る調査で確認されました。「犬ヶ岳山脈（豊前市）」にある1本を除き、福岡県内のエドヒガンは福智町にしかなく、全国的にもその群生は非常に珍しいと言われています。太古からこの町に受け継がれてきた自然の宝ともいえるべきエドヒガン。その貴重な桜は、今もなおこの町に息づいています。



mamezakura マメザクラ

開花▶3月下旬～5月上旬 / 分布域▶富士山周辺、北陸～中国
盆栽や鉢植えとしても栽培され、名前の通り小型（直径約2cm）で、下向きにびっしりと花を咲かせる豆桜。北陸から中国地方の日本海側にかけて分布する。花の色は、白～薄ピンク色が主流。



yamazakura ヤマザクラ

開花▶3月中旬～4月 / 分布域▶本州、四国、九州
温暖な気候を好むため、宮城県以南の低山や丘陵に多く見られる山桜。色の変化が少ない白い花、花と同時に生える赤褐色の新葉、横に筋が入る光沢のある樹皮、毛のない葉柄と花柄が特徴。



takanezakura タカネザクラ

開花▶5月上旬～7月 / 分布域▶北海道、東北、中部、近畿
奈良県よりも北の、標高1500～2800mの亜高山帯に分布する高嶺桜。高地への適応から、木の高さが1mに満たないものが多い。花弁は、白色から淡紅色までさまざま。ミネザクラの別名をもつ。



oshimazakura オオシマザクラ

開花▶3月下旬～4月中旬 / 分布域▶伊豆諸島、伊豆半島
沿岸部に多く生育する大島桜。数多くの園芸品種の原種でもある。花の直径が3～5cmと他に比べて大きく白い花が咲くこと、香りが高いことが特徴。桜餅を包む葉は、この桜の葉が使用されている。



miyamazakura ミヤマザクラ

開花▶5月下旬～6月中旬 / 分布域▶北海道～九州
全国の冷温帯から亜寒帯の寒冷地に分布するほか、朝鮮半島からロシアのウスリー地方、千島列島から樺太に生育する深山桜。一つの花茎におしべの長い白い花を房状に咲かせる特徴がある。



oyamazakura オオヤマザクラ

開花▶4月～5月中旬 / 分布域▶北海道、本州、四国
北海道、東北から中部、北陸でよく見られる、雪や寒さに強い北国の大山桜。花の色が濃く、葉がより大きいことが特徴。国外でも、朝鮮半島やサハラに分布。日本で一番開花の遅い桜として有名。



kanhizakura カンヒザクラ

開花▶1月下旬～3月 / 分布域▶台湾、中国南部～東南アジア
本州よりも南の地域で栽培されている寒緋桜。濃いピンク色と釣り鐘形の花が特徴。日本で最初に開花する桜として沖縄県のリュウキュウカンヒザクラが有名だが、花が釣り鐘形ではない。



kasumizakura カスミザクラ

開花▶4月～5月 / 分布域▶北海道～九州
主に北海道と本州で見られる霞桜。ヤマザクラより上、オオヤマザクラより下の土地に生育する。花と同時に出る新葉、春霞のような白～淡紅色の花が特徴。開花はヤマザクラよりも1～2週間遅い。



kumanozakura クマノザクラ

開花▶3月中旬～4月上旬 / 分布域▶紀伊半島南部
2018年、103年ぶりに基本野生種として登録された熊野桜。昔から現地で「二度咲く」といわれており、早咲きの桜をヤマザクラとは異なる種として認定。繊細な枝に明るいピンク色の花を付けることが特徴。



chojizakura チョウジザクラ

開花▶3月下旬～4月下旬 / 分布域▶東北、関東、中部
花を横から見ると、スパイスの「丁字（クローブ）」に似ていることから命名された桜。東日本の太平洋側や九州の一部に分布する。下向きに咲く2cm弱の花、まばらな花数、白～淡紅色の小さな花弁が特徴。



edohigan エドヒガン

開花▶3月中旬～5月上旬 / 分布域▶本州、四国、九州
東北から九州の山地に自生し、国外では韓国済州島、台湾、中国中部に分布する江戸彼岸。桜の中では最も寿命が長く、千年を越えるものもあり、有名な古木はこの種が多い。巨木になることも知られる。

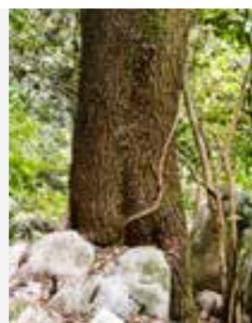
桜の基本野生種

▼古来より日本に自生する桜の基本野生種11本を一挙ご紹介いたします。

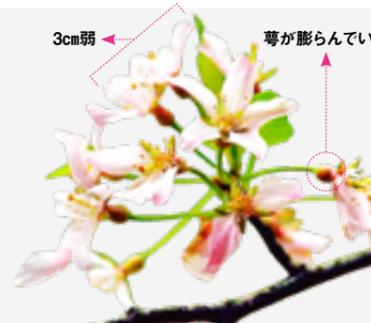


葉は楕円形で、互い違いに生えている。葉の縁には鋭い重鋸歯（大きなギザギザの中に細かなギザギザ）があり、葉の両面と葉柄に毛が生えている。また、新葉は花が咲いた後に生え、その色はヤマザクラの赤褐色とは異なり、緑色である。

全体に毛が生える葉



縦に筋が入る樹皮
エドヒガンの「いろは！」
横に筋が入り、表面がツルツルしているヤマザクラの樹皮とは対照的に、エドヒガンの樹皮は、暗灰褐色で浅い縦の割れ目が入り、ザラザラしている。年を経るにつれて、柿の木のように剥離する。他の桜には、あまり見られない特徴であり、見分ける時のポイント。写真はエドヒガンの幹。



エドヒガンの「いろは！」
萼が膨らんでいる
蕾は、淡い紅色。花弁は濃い紅色から純白に近い色まであり、個体差が大きい。咲き始めと終わりで、色が変化する。楕円形の花びらは5枚。丸い壺形の萼が最大の特徴。

萼が特徴的な花



群生地に住んでいるからこそ、知っておきたい！
エドヒガンの「いろは！」
広い地域に分布しているエドヒガン。しかしながら、その群生は日本全国でも珍しいといわれています。ここでは、貴重な桜が生育する町に暮らしているからこそ知っておきたい、エドヒガンの3つの特徴をご紹介します。